

令和6年3月31日

令和5年度 東京都立久我山青光学園 学校経営報告

校長 宮田 守

## 1 令和5年度の取組と自己評価

### (1) 取組

本校は、視覚障害教育部門・知的障害教育部門を併置する特別支援学校として14年目を終えた。

教育理念として『「確かさ(専門性)」と「愛情(教育愛)」あふれる学校』『子供たちの夢や希望をかなえる学校』を掲げ、教職員一人一人が学校経営計画に基づく自らの役割を自律的に自覚し、その理念を具現化し、同時に東京都特別支援教育推進計画(第二期)第二次実施計画に基づく教育施策に取組むことにより、保護者・都民からの信託に資することができるよう、教育活動の充実と円滑な学校運営に全力を尽くした。

令和5年度には、東京都教育委員会から、次の研究指定を受託するに至った。

#### 【視覚障害教育部門】

学習者用デジタル教科書・デジタル教材を用いた指導方法の改善事業

#### 【知的障害教育部門】

学習者用デジタル教材の開発事業

知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方の研究事業

これらの研究指定事業の取組を核とし、本校独自の教育課題の改善、教育活動のさらなる充実に向けた教育課程の改善を図ることができた。

### (2) 自己評価

#### ア 視覚障害教育部門・・・数値目標と結果

##### (ア) 学習指導

- |                               |          |
|-------------------------------|----------|
| ・世田谷区や地域交流校の教科研修会への参加         | 3回       |
| ・大学や外部専門家と連携したアセスメントの実施       | 20人      |
| ・個別指導計画の作成と保護者との話し合い          | 学期1回     |
| ・主幹教諭等の授業研究の実施                | 年3回      |
| ・地域授業参観を含め授業参観週間等の実施          | 年2回      |
| ・ユニット型授業研究校内発表会               | 1回       |
| ・教材教具の製作と活用                   | 一人1点     |
| ・点字検定・漢字検定・英語検定・珠算検定への参加      | 小10人中5人  |
| ・スポーツ、作品展、コンクール等への参加          | のべ91人    |
| ・幼稚部と小学部の交流学习                 | 2回       |
| ・タブレット端末を活用した授業開発及びデジタル教科書の活用 | 活用事例20以上 |

・社会貢献活動を各教育課程に位置付け全員が実施	全員
(イ) 進路指導	
・キャリア教育の年間指導計画に基づく就業体験活動	小学部 2 回、中学部 5 回
・保護者向け両部門合同進路講演会	2 回
・盲学校高等部専攻科見学	中学部 2 回
(ウ) 生活指導	
・引き取り訓練・セーフティ教室等安全指導の実施	各 1 回
・危機管理マニュアルの点検・保護者への提示	実施
・個々の幼児・児童・生徒に関するケース会（含寄宿舎）	年 8 0 回
・学区の警察署との連携	随時
・防災宿泊訓練の実施	中 2 で実施
(エ) 道徳科・特別活動	
・社会貢献活動を各教育課程に位置付け全員が実施	全員
・道徳授業地区公開講座・意見交換会	3 学期
・意見発表会、総合音楽祭、作品展等への参加	4 回
・個別の教育支援計画・学校生活支援シートの作成（新規作成者）	実施
(オ) 健康づくり	
・学校保健委員会、保健に関する講演会等の実施	年 5 回
・新型インフルエンザ等流行性疾患に関する情報提供	随時
・食物アレルギー対応	年 3 回
(カ) 広報活動、地域支援・地域交流等	
・0 歳～2 歳乳幼児育児相談	のべ 3 0 人
・3 歳～5 歳幼児教育相談	のべ 4 0 人
・小・中学生の巡回指導	のべ 4 0 人
・小・中学生の通級指導	3 人以上
・地域の小・中・高校への支援	年 8 回
・集中講座・講演会・保護者研修会の実施	2 回
・地域の学校及び居住地の学校との交流(副籍)	年 2 0 回
・副籍事業を実施する児童・生徒数（内直接交流）	3 0 人以上（2 0 人）
・地域、関係機関への理解啓発活動	年 1 0 回
・烏山中学・三鷹中等とのスポーツ交流	年 3 回
・インターネットの活用（ホームページの更新）	毎月 3 回以上
・国立成育医療研究センターへのコーディネーター派遣	1 1 回
(キ) 寄宿舎指導	
・入舎生に関する担任とのケース会議	一人年 2 回
・保護者会・保護者面談、保護者参観の実施	年 6 回

・(寄宿舎生活の充実) 役員会の実施	週 1 回
・(寄宿舎生活の充実) 交流活動の実施	年 3 回
・(寄宿舎生活の充実) 寄宿舎行事の実施	年 3 回
・(寄宿舎生活の充実) あそび活動の実施	月 4 回
・生活指導の充実・・・客観的な指標作成と活用	入舎生全員対象
(ク) 部門経営・組織体制	
・特別支援学校教諭(視覚障害)免許状所有者	53%
・弱視学級との連携による相談・支援の情報交換会	年 3 回以上
イ 知的障害教育部門・・・数値目標と結果	
(7) 学習指導	
・学年をこえた授業参観	30 回以上
・外部人材を活用したアセスメントの実施	30 回
・個別指導計画の作成と保護者との話し合い	年間 3 回
・教材・教具の開発、製作、講習会の実施	一人 1 点以上製作
・タブレット端末を活用した授業開発	活用事例 20 以上
・作品展への参加	140 人
・家庭と地域生活の見直し(チャレンジ日記の活用)	40 人以上
・社会貢献活動を各教育課程の中に位置付け全員が実施	全員
(イ) 進路指導	
・キャリア教育の年間指導計画に基づく就業体験活動	小学部 3 回、中学部 3 回
・一人登下校チェックシートの活用と充実	随時
・保護者向け両部門合同進路講演会	2 回
(ウ) 生活指導	
・引き取り訓練・セーフティ教室等安全指導の実施	各 1 回
・危機管理マニュアルの点検・保護者への提示	1 学期
・学区の警察署との連携	学期 1 回以上
・防災宿泊訓練の実施	中 2 で 1 回
(エ) 道徳科・特別活動	
・学校生活支援シート(個別の教育支援計画)の作成(新規作成者)	実施
・学校生活支援シート(個別の教育支援計画)の相談定例支援会議の実施	全員実施
(オ) 健康づくり	
・健康教育に関する校内研修会の実施(学校保健委員会を含む)	年 5 回
・新型インフルエンザ等流行性疾患に関する情報提供	随時
・食物アレルギー対応	アレルギー対策委員会年 3 回
(カ) 広報活動、地域支援・地域交流等	

・ B Bクラブ等での相談支援活動	夏季休業中 1回
・ 幼稚園、保育園、小学校、中学校を対象とした相談支援実施	年間 83件
・ 学校公開への参加者数	138名
・ 副籍事業を実施する児童・生徒数（内直接交流）	124人（45人）
・ ホームページの更新	毎月3回以上
・ 世田谷区と連携した小学校支援	9回
・ 放課後等デイサービス連絡会実施	1回
(キ) 部門経営・組織体制	
・ 特別支援学校教諭等免許状所有者	74%
・ 理解啓発のための研修会等の実施	2回
・ 公開講座の実施	2回
ウ その他、学校経営及び組織体制にかかわる事項（両部門共通）	
・ 教職員の学校評価アンケートの実施	100%
・ 教職員の健康診断受診率	100%
・ 法令等に基づく学校運営に関する自己点検	年3回
・ 校内向け各種職員研修会	年21回
・ 服務事故防止研修(体罰研修含む)	年4回
・ 校内新任者・転任者研修会の実施	年10回
・ 退職ボランティア、学生ボランティアの活用	7人
・ 学校運営連絡協議会（評価委員会を含む）の実施	年3回
・ 若手教員指導担当者打合せ	各部門2回
・ その他必要な研修会実施	随時
・ 80時間以上超過勤務者ゼロ（管理職除く）の月の実現	通年4回

## 2 次年度に向けて

令和6年度は、本校が平成22年4月に久我山盲学校と青鳥特別支援学校久我山分校を発展的に統合して、視覚障害教育部門と知的障害教育部門を併置する学校として誕生してから15年目を迎える。今年は、これまで積み上げてきた知識と文化を踏まえ、来るべき新しい時代に、全国の視覚障害特別支援学校、知的障害特別支援学校を牽引していくような学校を作り上げていくための第一歩となる年にしていきたい。

これからの時代、学校を取り巻く社会情勢・社会環境も大きく変化するものと考えられる。「予測困難な時代」を、本校の幼児・児童・生徒たちが生き抜くためには「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる」力をつけさせる必要があり、そのためには、「専門性」と「教育愛」が必要であると考え。これらを踏まえ、次年度の学校経営計画は進めていく。